

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

新紙幣

明日、7月3日は新紙幣が発行される日です。報道等でも発表されている通り各紙幣に描かれる肖像画が変更されます。

- 1万円札…渋沢栄一：明治から昭和初期にかけて活躍した実業家
- 5千円札…津田梅子：日本で最初の女子留学生の一人。津田塾大学の創設者
- 千円札…北里柴三郎：ペスト菌を発見した医学者

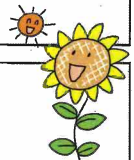
経済、教育、医学と分野は違えど、我が国の発展に寄与された人物です。今回のような機会に先達の功績や人となり調べてみるのも面白いかなと思いました。また、過去の紙幣の肖像画となった人物を遡ってみるのもいろいろな発見があるかもしれません。

参考までに現行は福沢諭吉（1万円）、樋口一葉（5千円）、野口英世（千円）です。私が子どものころ（昭和時代）は、聖徳太子（1万円・5千円）、伊藤博文（千円）、岩倉具視（5百円）でした。当時は5百円の紙幣がありました。さらに遡ると、百円紙幣や1円紙幣もあったみたいです。紙幣を切り口にした我が国の歴史が垣間見えそうです。

また、近年はキャッシュレス決済が主流となり、お金そのものを持ち歩かない人も増えているようです。そういった意味では今回新紙幣に変わっても目にする機会があまりないかもしれません。子どもたちが社会の中心となる頃には、現金決済がほぼ行われていないかもしれません。しかし、金銭感覚を身につけて社会生活を送ることは現金でもキャッシュレスでも変わらないことだと思います。

2000年に発行された二千円札。目にする機会がほとんどありません。でもれっきとした紙幣ですので使えます。沖縄県では比較的流通しているとも聞きます。

世の中の話題に目を向け、そこから発展的に思考を巡らせる楽しさや面白さを子どもたちには味わわせたい、味わってほしいと思います。



夏休みまで

7月になりました。今年の1学期始業式は7月19日です。今日からの登校日数だけ数えると13日を残すところとなりました。

まずは体も心も健康で元気に1学期を終えてくれることが何よりです。そのうえで、1学期の学習や生活をしっかりと振り返ってほしいと思います。

できたこと、もう少しだったこと、それらと向き合って、どのような夏休みにするかを計画してほしいと思います。

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

教育週間

昨日(6/17)から「小栗っ子の心を見つめる教育週間」が始まっています。ご存知の方も多いと思いますが、長崎県では2003年、2004年、2014年に子どもに関わる重大事案が発生しています。子どもたちに「命を大切にすること」「豊かな心を育むこと」を目的としてこの教育週間は設けられています。この目的に近づくために学校での子どもたちの様子を見ていただく学校開放や道徳科の授業公開、保護者会、平和学習が設けられています。昨日は教育週間初日にあたり、次のような校長講話を行いました。

自分の命も他人の命も大切にすること。それは体や心を傷つける行為をしていないか自省してみることで確認すること。命は連綿と紡がれてきた営みであって、自分一人で今ここに存在しているのではないこと。世代を遡れば何十、何百という命があって自分につながっている。だから自分や他人の命を粗末にすることは、自分や他の人の家族を傷つけること、粗末にすること。

豊かな心は目には見えない。だからわからないということではないこと。豊かな心は、言動や振る舞いに表れるということ。自分の言葉遣いや態度について考える機会が教育週間中は普段より多いこと。その機会を生かして自分の心を成長させること。

「お・ぐ・り」について、「大きな心で」「ぐんぐんのびる」「りっぱな考えをもつ」ことに取り組んでいるか。面倒と思うこともあるかもしれないが、日々の積み重ねがたしかな成長につながることを。

子どもたち(小学生)は、現在も成長過程にあり、様々な学びを得て社会に出て、自分も他人も居心地の良い世界をつくっていく一人となってほしいと思っています。

しかし、現実の報道等を鑑みると、利己的、自己中心的な行為や迷惑行為の数々、ネット社会特有の匿名性による誹謗中傷が決して少なくありません。

そのような行為に至るまでの経緯もあるかもしれませんが、自分の行為に歯止めをかける自制心や、不適切な行為を恥じる気持ちを育てることの大切さも感じます。



時の流れに…

私には高3と高2の娘がいます。当然ですが小学校時代がありました。振り返ってみれば、あっという間に高校生になったような気もします。もうしばらくすると成人を迎えるのでしょうか。子どもの成長は早いと思うとともに、過ぎた時間は戻らないとも感じます。かけがえのない時の大切さを感じます。

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

運動会が終わりました

5月26日に実施しました運動会には、多数の来校をいただき、ありがとうございました。目まぐるしく変わる天気予報にいささか翻弄されていましたが、予定通り行えたことは何よりでした。

この運動会を通して、「ねばり強くやりとげること」や「仲間と何かを創り上げること」や「自分の役割を全うすること」など、競技や演技の出来栄え以上のものを実感したり、「自分への自信を高め」たり、「今後の生活に生かし」たりすることで、子どもたちの成長に役立てられる運動会であってほしいと思います。

年度初めから続いてきた様々な行事（始業式、入学式、遠足、授業参観・・・）も、運動会でちょっと一区切りという感じです。そこで大事なことがあります。それは目標を見失わないということです。行事があると、それを明確な目標として目指しやすい状態に身を置くことができます。しかし、明確な目標が設けにくい状態になると、生活が乱れたり、何をしたいか迷走したりしてしまふことがあります。

ですが、本当に運動会が終わると一時的にでも目標が薄れるかという、そうではありません。毎日の授業（学習）はそれ自体、子どもたちが習得すべき目標ですし、4月には自分自身の1学期の目標や1年間の目標を立てています。

ですから、立て続けていた行事がちょっと一息の今だからこそ、自分の目標を改めて確認したり、向き合ったりすることには意味や意義があります。



梅雨入りの時期です

梅雨入りの報道はまだですが、天気がぐずつくことが多い時期です。学校内でも学校外でも天候に応じた生活が求められます。

- ・室内で過ごすことを余儀なくされた時、屋外と同じように走り回り、大きなケガをしてしまう、させてしまう。
- ・傘をさして遊んでいて、振り回した傘が他の人にあたってしまう。
- ・傘で視界が悪くなり、車の動きを十分見ることができず、事故にあってしまう。
- ・増水した水路に長靴や傘を入れて遊んでいて、水の勢いで流されてしまう。
- ・水たまりで遊んでいて、自分や周りの人を泥はねで汚してしまう。



この時期に限らず、自分自身に悪意はなくても、結果的に良くない結果を招きかねないことがあります。その可能性が雨で高まるのもこの時期だと思います。

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

講演会の記憶から

10年ほど前、京都での研修会へ出張に行った時、京都の老舗料亭のご主人の講演を聞く機会がありました。ずいぶんと時間は経っているものの、そこでお話されたことで今も記憶に残っていることを紹介します。

- 新しくその料亭に入ることになった人たちへまず声をかけるのは、「ここには就職したのではなく、修行にきたと思いなさい」だそうです。
 - ・料理、特に老舗の料亭ともなると楽しいことばかりではないのでしょう、一人前の料理人になるには厳しいことを乗り越えないといけない場面もあるからその言葉かなと思いました。
- 最近（10年前時点です）の子たちができていないのは「あいさつ」と「返事」ということをとても感じます、という話をされました。
 - ・お客さんを相手にする仕事は、言い換えれば人を相手にする仕事です。店の誰かの「あいさつ」や「返事」がおろそかになると、店そのものの評判にもつながるのだろうと感じました。

さて、この2点は、講演の中でも私が特に強く記憶していることです。それは、10年経っても通じるところがあるからです。

子どもたちは、いずれ社会に出る時期を迎えます。その時、多少の困難に対しては自分で乗り越える力が必要でしょうし、全く人と関わらずに過ごすのも非現実的な一面があります。「ねばり強くやり遂げること」や「あいさつや返事を通した基礎的なコミュニケーションを身に付けること」を子どもたち個々の成長過程をふまえながらも、少しずつでも伸ばしていくのは教育の不易の一面だと感じています。

登校の様子から

本校は、住宅地が近隣に多く、朝の通勤通学時、夕方の帰宅時には歩行者、自動車、バイク、自転車と様々な交通手段が入り混じります。子どもたちは安全に気を付けながら登下校しているところです。

しかし、過去の報道等では、登下校中の子どもが車両側の過失によって交通事故に巻き込まれたものが少なくありません。自分の命を守る意味でも、わき道から本線に合流する車両や、スピードを出して走行している車両がないか十分注意を払って、より一層安全な登下校を心がけてほしいと思います。



目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

大型連休が終わりました

4月末からの大型連休も終わり、学校はこれから運動会へ向けての練習が本格的に始まります。新学期早々から季節外れの暖かさ（暑さ）でしたが、ここ数年は、春の運動会時期でも熱中症への備えが必要になってきています。

子どもたちが運動会当時に最高のパフォーマンスを発揮できるのは喜ばしいことですが、体調を崩しては本末転倒です。体調管理をしながら無理なく本番を迎えてほしいと思いますし、迎えさせたいと思います。

新学年から1か月が経ち、大型連休を終えた頃に懸念されるのは、「生活リズム」です。いくばくかの緊張もほぐれ、大型連休で時間的にいささか自由に過ごす機会に体が慣れ切ってしまうと、本来の状態に戻すのは大人でもきつuitと思います。

特に睡眠が十分とれていない、または睡眠をとる時間帯が学校授業日とずれると、様々な活動をする上で重要な働きをする「脳」が十分に活動しづらい、または活動する時間帯がずれることになりかねません。以前から「早ね・早起き・朝ごはん」といわれていますが、子どもたちの生活リズムをつくるうえでの大切な要素だと改めて思います。

子どもたちと出会って約一か月が経ちました。校内や朝の登校時に元気よく挨拶してくれる子どもも多くいます。大人でも慣れないうちは、気恥ずかしさもあって挨拶をかわすのがなかなか難しいこともあります。しかし、気持ちの良い挨拶を交わすことで人間関係の第一歩を踏み出せることもあると思います。本校の子どもたちの中には、その場で立ち止まり元気よく挨拶できる子どももいます。いい習慣が育っている子がいるなあと感じます。

授業参観・保護者会・育友会総会ありがとうございました

4月26日（金）の授業参観・保護者会には、お忙しい中の来校ありがとうございました。授業参観では学年初めのお子様の様子を、保護者会では担任との顔合わせをしていただけたのではないかと思います。今回、来校が叶わなかった皆様におかれましても個別の面談や次回の授業参観の折に担任との話やお子様の様子を見ていただければと思います。

また、育友会総会においても多くの出席をいただきありがとうございました。効率的なスタイルでの開催がされていることに、本校の先進性が表れていると感じました。



目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

ごあいさつ

このたびの異動により本野小学校から4月1日付で小栗小学校に着任しました校長の橋口亨（はしぐち とおる）と申します。校長歴4年目を迎えます。学校での学びが日常に、ひいては子どもたちの未来につながっていけるよう努めて参ります。本校教育に係るご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和6年度のスタートにあたって

令和6年度が始まり、早一週間です。学校では1学期の始業式を終え、学校としての1年間をスタートさせました。

さて、今年度の学校の方向性を以下のとおりお知らせいたします。詳しい学校経営方針は、本校ホームページに掲載していますので、見ていただければ幸いです。

■学校教育目標

「自他を大切にし、耐性と学力を身に付け、みんなと協働できる子どもの育成」

- ・子どもたちが将来にわたって必要な社会性と学力の充実・向上に努めます。
- ・目指す児童像として「自分で考え、より良い判断ができる」を掲げ、変化の激しい社会を生き抜く力の具現化に学校生活全体を通して努めます。

■時代の流れに沿った学校の働き方改革

- ・各種取組を精査し、効率的な業務推進を行い、子どもたちと向き合う時間を増やします。
- ・今後、「学校だより」は、ホームページ掲載とし、原則として紙での配付は行いません。ご了承ください。

ホームページ二次元コード⇒



始業式より

始業式に子どもたちに次のような話をしました。

- 学校は大人になるための力をつける練習の場であること
- 練習をする中ではうまくいかなかったり、失敗したりすることもあること
- 「おおきなこころで」「ぐんぐんのびる」「りっぱなかんがえをもつ」を目標に、それぞれの具体的な取組を考えていくことが大切だということ
- 1年間や1学期の目標をしっかりと立て、年度末に自分の成長を実感できること

